

1st クラス競技規定

目次

・一般	p. 1
・年間ポイント	p. 2
1. 受付	p. 3
2. タスク	p. 3
3. ラウンドの成立、タスクの成立、大会の成立	p. 3
4. 競技の中止	p. 4
5. 競技時間	p. 4
6. テイクオフ	p. 4
7. リフライト	p. 4
8. ランディング	p. 4
9. タスクフィニッシュ	p. 4
10. 競技終了報告（帰着申告）	p. 4
11. 競技説明	p. 4
12-a 時間計測	p. 5
12-b 競技方法	p. 5
13. 得点計算	p. 5

一般

〈参加資格〉

- 参加者は有効なフライヤー会員登録をしていること。
- 日本学生フライヤー連盟に加盟していること。
- その他参加資格の詳細は、大会毎に定めるため開催要項に記載。

〈運用限界〉

- 選手は自分の使用する機材の特性を十分理解し、なおかつその運用限界内で使用しなければならない。

〈保護用具の使用〉

- 参加選手は、適切な防護ヘルメット、大会最終日より遡って 180 日以内にリパックされたレスキューパラシュート、ハーネスからのパイロット脱落防止装置を装備しなければならない。
- 大会の最初のフライトの際選手はテイクオフスタッフにレスキューパラシュートの確認を受けなければならない。確認を受けた際、レスキューパラシュートのリパックの期限が切れている、または大会期間中にリパックの期限が切れる場合はその選手の大会参加を認めない。

〈使用機材〉

- 使用する機材の安全性・耐空性は選手自身により管理され、確保されていなければならない。少しでもそれらに問題がある場合はフライトをしてはならない。
- 使用機体は、シリアル機のみとする。シリアル機とは、EN 規格あるいは LTF (DHV) 規格に適合していると、CIVL あるいは JHF の認めた認証機関が認定証を発行したもののおよび認定証を発行された機体と同型機でサイズの違うもので、改造されていないものを言う。
- 大会主催者は、大会期間中いつでも、選手に対して機体の整備状況や安全性について報告を求め、また、機体を検査することができる。また、安全性に問題があると判断された場合は、その問題が解消されるまで、その機体の使用を制限することが出来る。
- 使用機体は、原則として大会期間中変更できない。ただし、破損した場合は適切な処置（パーツ交換・修理）を施した上で破損する以前と同等の耐空性能を得て使用し続けるか機体

の変更を申し出ることが出来る。

〈健康管理〉

- 選手は心身ともに競技できる健全な状態でなければ競技してはならない。
- フライトに支障をきたす薬物やアルコールを摂取してのフライトをしてはならない。

〈通信機器〉

- 飛行中は電波法に基づき、無線機を使用すること。
- 参加選手はフライトをしたか、しなかったかにかかわらず毎日安全確認の報告を決められた時間までに行うこと。

〈航空法〉

- 航空法を厳守すること。

〈雲中飛行〉

- 雲中飛行は禁止とされ、競技役員、他の選手によって監視される。
- 雲中飛行とは、グライダーの一部又はパイロットが雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- 雲中飛行をした選手のそのフライトは無効となる
- 多くの選手が雲中飛行をした場合、競技委員長の判断によっては競技が中止される場合がある。

〈衝突回避〉

- 旋回方向はエアリアルールに準ずる。エアリアルールは参加選手全員に広報されなければならない。
- サーマルにはすでに旋回中のフライヤーと同方向に旋回するように入ること。

〈テイクオフ、ランディングの使用について〉

- 大会で使用するテイクオフ、ランディングは競技委員長の判断に準ずるものとする。

〈ペナルティー及び失格〉

- 日本学生フライヤー連盟のハラスメント規定にもとづいて、ハラスメント行為が行われたと認められる選手はペナルティーを与えられる。
- 大会規則に違反した選手あるいは役員への指示に従わない選手は警告を与える。警告を与えられた者は何らかのペナルティーを与えられる。二回警告を受けた選手は大会失格とする。
- 重大な危険行為をした選手及び不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。
- 他人に迷惑をかける行為を行った選手は、大会失格とする場合がある。
- 大会失格となった選手のその大会での成績は、0点にする。また、大会失格となった時点で、その後の競技への出場は認められない（大会失格となった大会のみ）。

〈タスクキャンセルとタスクストップ〉

- 競技開始後に、天候が急変した場合に、競技委員長はタスクキャンセルすることができる。また、競技の途中でタスクをストップすることができる。この場合、タスクストップした時間までの最も滞空時間の長い一本で成績を出す。

〈大会審判長の設置〉

- 公平かつ正確な判断を下すため、ランディングに審判長を設置しなければならない。審判長はパラグライダーあるいはハンググライダーの特性に熟知している者であることが望ましい(NP 証あるいはC級以上の者であることが望ましい)。

〈その他（選手心得、禁止事項など）〉

- 水以外のいかなる物品も投下してはならない。
- 電線、建造物、人込み等の上空は安全な高度（100m 以上を目安とする）を保って飛行すること。
- 競技委員長に安全なフライトは無理と判断された場合、フライトを制限されることがある。
- たとえ競技が開始されても、気象条件が自分の能力の限界を超えている、あるいは超えそうだと判断した場合、テイクオフを断念すること。
- 競技フライト中、たとえ競技が中止されなくても、気象条件が自分の能力の限界を超え

ている、あるいは超えそうだと判断した場合には速やかに競技を中止し、安全にランディングすること。

年間ポイント

➤ ポイント計算

各大会において順位に応じた大会得点を与える。ここで獲得した各大会の大会得点の総計を年間ポイント（最終成績）とし、年間ポイントで年間ランキングを決定する。ただし、年間ポイントが同点となった場合、それぞれの大会での総合得点の合計が高いものを上位とする。

大会得点は以下のように定める。

1 位：20 点 2 位：15 点 3 位：12 点 4 位：9 点 5 位：7 点
6 位：5 点 7 位：3 点 8 位：2 点 9 位：1 点 10 位以下：0 点

➤ 団体の得点：団体戦概要に載せる

1, 受付

受付は、大会スケジュールの時間に従って、大会本部にて行う。受付時間に遅れたものは、その日のフライトは棄権したものとみなす。

2, タスク

大会期間中は原則タスクを変更できないが、大会全日を通してフライトができなかった場合限りタスクの変更を認める。

タスクは次のものとする。

- a) デュレーション
- b) グランドハンドリング

3, ラウンドの成立、タスクの成立、大会の成立

a) デュレーション

(1) タスクの成立

タスクの成立条件は、次の 2 項目 (I、II) のいずれかが達成されたときである。

- I. 参加選手全員がフライトし、選手の 20%以上が 15 分以上のフライトを行えた場合。
- II. テイクオフ ウィンドウ オープン タイムが十分に (参加人数×3 分程度) あり、そのフライトに参加の意思表示をした選手の 20%以上が 15 分以上のフライトを行えた場合。

(2) 大会の成立

大会の成立条件は、次の 2 項目 (I、II) が共に達成されたときである。

- I. タスクが少なくとも 1 本は成立する。
- II. 出場者数が 4 人以上である。

・フライトしなかった選手・失格となった選手は、共にそのフライトに対し 0 点を与える。病気または事故により辞退あるいは大会失格となった選手は採点対象のグループまたはクラスのメンバーとしては扱われない。

b) グランドハンドリング

(1) ラウンドの成立

競技に参加をする意思表示をした選手全員が競技を行った場合、そのラウンドは成立するもの

とする。

(2) タスクの成立

ラウンド1本の成立を持って、タスクの成立とする。

(3) 大会の成立

大会の成立条件は、次の2項目(I、II)が共に達成されたときである。

- I. タスクが少なくとも1本は成立する。
- II. 出場者数が4人以上である。

・フライトしなかった選手・失格となった選手は、共にそのフライトに対し0点を与える。病気または事故により辞退あるいは大会失格となった選手は採点対象のグループまたはクラスのメンバーとしては扱われない。

4, 競技の中止

いったん競技が開始されても気象条件の急変等により、その競技を中止する場合がある。その場合フライト中の選手には公式無線により知らせる。フライト中の選手は速やかに安全にランディングすること。

5, 競技時間

選手はテイクオフ ウィンドウ オープン タイム内にテイクオフし、定められた時間までに競技終了報告をしなければならない。

6, テイクオフ

テイクオフは、フリーテイクオフ制を用いる。(テイクオフ ウィンドウ オープン タイム内の選手の好きな時刻にテイクオフする。)。ただし、テイクオフディレクターの指示に従わなければならない。

7, リフライト

リフライトは何度してもよいが、リフライトする選手はリフライトの前にリフライト申告をすること。ただし、全フライトのうち最も滞空時間の長い一本のみが得点対象となる。フライトする選手は必ず機材の準備を終了させたうえで、リフライト申告をすること。

8, ランディング

ランディング場は地図に示したエリアをいう。指定のランディング場に着地した場合をインサイドランディング、それ以外をアウトランディングという。アウトランディングした場合はエアールールに従うこと。アウトランディングは、そのフライトを採点対象外とする。ただし、安全上の理由によりアウトランディングした場合は競技委員長およびセーフティーコミッティーの判断によるものとする。

ランディングのインストラクター(あるいは競技委員長)、大会審判長、当該選手、3者の話し合いにより過度に危険なランディングと認められた場合、そのフライトのタスク得点を30%減点する。

9, タスクフィニッシュ

▶ 選手はタスクフィニッシュを過ぎたら速やかに(安全最優先で)ランディングすること。

10, 競技終了報告(帰着報告)

当日受付した選手はフライト、ノーフライトのいかんに関わらず、大会本部に直接報告しなければ

ばならない。指定された時間までに連絡がない場合は、そのタスク得点を 10%減点する。やむをえない場合のみ電話での連絡もみとめる。(無線での連絡も受け付けるが、連絡した場合は必ず大会役員の了解をもらうこと。一方的に連絡して無線をきった場合はその連絡を無効とする。)

11, 競技説明

a) デュレーション

テイクオフしてからランディングするまでの滞空時間を競う。

ただし、当日の気象条件等によりデュレーションのタイムに上限を設けることもある。

b) グランドハンドリング

① ディスタンス

スタート地点からグランドハンドリングをどれだけ遠くまで行うことができるかを競う。

② デュレーション

グライダーを頭上に保持してられる時間を競う。時間の測定は競技の開始が宣言され、グライダーが地面から離れてから次に地面につくまでの時間を測定する。

12-a, 時間計測

a) デュレーション

時間の計測は離陸時、両足裏が地面を離れた瞬間から、着陸時、体の一部が接地するまでを大会スタッフが計測する。計測単位は秒とする。

12-b, 競技方法

b) グランドハンドリング

① ディスタンス

- スタート地点からグランドハンドリングをどれだけ遠くまで行うことができるかを競う。
- 計測は大会役員が行う。
- 計測する距離はスタート地点からグライダーが地面についた時点でのスタート地点に近い足のかかとまでの距離とする。
- 距離の計測はスタート地点からの直線距離で測定し、測定単位は cm とする。(cm 未満は切り捨てとする。)
- 競技を行う順番は 1 ラウンド目はゼッケン順、2 ラウンド目以降は前のラウンドの成績が低い順とするが、安全が十分に確保できる場所で競技を行う場合選手全員が同時に競技を始めることを認める。

② デュレーション

- グライダーを頭上に保持してられる時間を競う。時間の測定は競技の開始が宣言され、グライダーが地面から離れてから次に地面につくまでの時間を測定する。
- 計測は大会役員が行う。
- 時間は制限しない。
- 競技を行う順番は 1 ラウンド目はゼッケン順、2 ラウンド目以降は前のラウンドの成績が低い順とするが、安全が十分に確保できる場所で競技を行う場合選手全員が同時に競技を始めることを認める。

13, 得点計算

a) デュレーション

● タスク得点

- 満点が 1000 点となるようにノーマライズを行う。コンディションによる得点格差が生まれないように RVF をかける。

$$P = 1000 \times \frac{T}{T_{\max}} \times RVF$$

(P：タスク得点、T：個人の滞空時間、Tmax：1stクラス最長滞空時間)

$$RVF = \frac{\text{その日の有効な競技を行った競技参加者の平均滞空時間 (秒)}}{3000 \text{ (秒)}}$$

とする。ただし 最大値を 1 とする。

- **総合得点**

- 各個人のタスク得点を累計して総合得点とする。

- b) **グランドハンドリング**

- **ラウンド得点**

- 各ラウンド得点の算出方法は、順位による。

1位…55点、2位…40点、3位…30点、4位…25点、5位…20点、6位…15点、7位以下…10点

- **タスク得点**

- タスク内で成立したラウンド得点の総計を、満点が 1000 点となるようにノーマライズし、各選手のタスク得点とする。

- 5 回以上のラウンドが成立した場合、最も悪いラウンド得点 (1 個) を除き、残りの全ラウンド得点を合計したものをを用いることとする。

タスク得点の計算式は、

$$P = 1000 \times \frac{x}{X_{\max}}$$

(P：タスク得点、x：ラウンド得点の総計、Xmax：タスク内首位のラウンド得点の総計)

- **総合得点**

- 各個人のタスク得点を累計して総合得点とする。

総合得点が同点であった場合

- 大会での最終成績で上位 3 人に同点があった場合、2 人、あるいは全員がタイブレイクのフライト (競技がグランドハンドリングの場合はグランドハンドリング (ディスタンス、デュレーションなど)) を行う。ただし、気象条件および時間的制限により、タイブレイクのフライトを行うことが出来ない場合は、大会期間中で成立したラウンドのうち無作為に抽出した一つのラウンドを比較して、点数の高い者を上位とする。